

# ICTモラルを育成するための授業

## —インターネットトラブル事例集を活用した授業—

森田直実（板橋区立赤塚第二中学校）

概要：生徒たちの生活の中では、スマートフォンやタブレット端末、ゲーム機などの ICT 機器は、コミュニケーションツールとしてすでになくてはならないものとなっており、いつでもどこでも利用できる環境にある。便利な反面、その依存度が高くなったり、事故を招いたりなど、さまざまなトラブルが大きな問題となっており、それら具体的な課題に対する情報モラル教育の実施は今や必要不可欠である。総務省が毎年発行している「インターネットトラブル事例集」を活用した授業実践を行い、情報モラル教育の成果と課題について考察する。

キーワード：情報モラル、ICT機器、インターネットトラブル事例集

### 1 はじめに

中学校の生徒にとってスマートフォンやタブレット等の ICT 機器は今や必要なものとなっている。生徒の中には、生まれたときからスマートフォンが身近にあり、玩具の代わりになっていた生徒もいる。保護者の中でも、スマートフォンの使用が欠かせないものとなっている部分はある。スマートフォン等による犯罪について、知っていたり心配したりしているものの「自分の子は大丈夫」と思っている部分もあるのではないかと考えている。インターネットを使った犯罪が身近にあり、いつ巻き込まれてもおかしくないことを生徒たちに伝え、よりよい使い方だけをするにはどのような意識が必要なのか。生徒自身に考えさせ、保護者にも協力してもらおう環境を作りたいと考えた。その実践を記したい。

### 2 授業実践

#### (1) 対象生徒と今までの取り組み

授業実践は第3学年の生徒で行う。本校の現3年生は、入学したばかりの4月にスマートフォンとの関わり方について考える学習を行っている。また、2年生では、スマートフォンと学習に関するグラフから、スマートフォンとどのように付き合うべきかを考えている。また、総合的な学習の時間を利用し

て、全学年で情報モラルについての学習も行った。LINE コーポレーションによるトラブルを未然に防ぐための講演会で、非対面のコミュニケーションで大切なことを講演し、よく考えて使うことを学んでいる。

#### (2) 授業の内容

時間	目標	内容
1	インターネットの利用の現状を読み、情報化社会を大観しよう	インターネットトラブル事例集を使用し、どんなトラブルが起こっているか大きくつかむ。
2	トラブルの傾向を知り、現状を理解しよう	インターネットトラブル事例集を使用し、トラブルはなぜ起こるのか、自分たちの身近にはどんなトラブルがあるか考える。
3 (本時)	トラブルに意識をもって対策について考えよう	・トラブル事例集を見ながら自分たちに身近なものでランキングをつける(班) ・班ごとに比較して、中学生のインターネットへの意識を共有する。

	・対策を考え、よりよく使うために必要なことは何か考える。
--	------------------------------

### (3) 本時の展開

本時は、トラブルを身近なものに意識させ、よりよい解決を考えることを目標にしている。生徒たちにとって、インターネットは真偽が混じっている、情報が操作されるものである、犯罪に巻き込まれる可能性があることは既習事項である。しかし、自分は気を付けているから大丈夫と考えがちであることから、より身近なものであること、身近だから対策を施さなくてはならないことを授業を通して考えさせたい。

導入	<p>・インターネットやスマートフォンでのトラブルで見たこと聞いたことのあるものを挙げる。</p> <p>【予想される生徒の答え】</p> <p>SNS等での仲間外れ、スタンプ爆弾 なりすまし・ウイルスへの感染 など</p>
展開	<p>①インターネットトラブルを大きくカテゴリーにわけ、自分たちに起こりそうな順番にランキングをつけていく。理由も発表する。 (個人→班→全体)</p> <p>②各班1位にしたものの対策を考え、よい部分だけを使うにはどうしたらよいか考える。班で相談する。</p>
まとめ	<p>・今日の授業を通して考えたことをまとめる。</p> <p>・何人か発表させて意見を共有する。</p> <p>・保護者にも今日学習したことを伝えることを話す。</p>

### 3 授業を終えて

生徒たちにとって、スマートフォンをはじめとしてインターネットは身近なものになっていっている。また、生徒たちはインターネットが危険をはらむものだということも認識している。しかし、認識しているだけで、やはり自分は大丈夫という過信してい

る生徒がいることもわかった。本授業を行い、トラブルをランキングにしたことで、インターネットはトラブルがいつでも起こりうるもの、また身近に感じる生徒が多かった。また、トラブルが多いから使うのをやめようという流れではなく、トラブルがあることを知り、そのうえでどのように使うことが自分たちにとって有効であるかということを考えている様子が真剣であった。

今回の授業で使用したインターネットトラブル事例集は、身近な例が非常に多く、ニュースで報道された事件に似ているものもあった。生徒の中には、「こうやってあの事件のようになってしまうのか」と考えたり、「自分も普段は大丈夫だけど、落ち込んだり悩んだりしたときに、SNSを使ってしまって事件に巻き込まれてしまうかもしれない」と自分も被害者になりうることを考えている生徒もいた。今回の授業をうけて「SNSは知らない人とつながるよりも、今の友達とこれからもつながっていけるツールにしたい。悩みや相談があれば、実際に仲良くしている人や親にしたい」と感想を記入している生徒もいた。授業を通して、SNSの使い方をよく考え、仲間とつながるといふ本来の使用から有効な手段にできるようになるのではないかと感じた。事例の中では動画もあり、動画は生徒の実態に即したもので生徒たちは驚いていた。

### 4 今後の課題

今後の情報モラルの学習については、小学校との連携に取り組みたい。

生徒によっては、赤ちゃんの頃から遊び道具の代わりとしてスマートフォンを手渡されていた者もいる。だんだんとスマートフォンを持つのがあたりまえの年齢が低くなっている。小学校と連携していけたら、さらに効率よく有効活用について考えることができるのではないかと感じた。各発達年齢に応じた情報モラル教育ができれば、さらに効果的だと考えている。

### 参考文献

「インターネットトラブル事例集」(総務省)